

ベラルーシ公開情報とりまとめ

(9月23日～9月29日)

2017年10月5日
在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

- 英外務省ダンカン閣外大臣の来訪(9月25日, 26日)

内政・外交

【ルカシェンコ大統領動静】

●露チェチェン共和国カディロフ首長との会談

9月25日, ルカシェンコ大統領はベラルーシ訪問中の露チェチェン共和国カディロフ首長と会談した。同大統領は, ベラルーシはコーカサス地域におけるチェチェンとの連携に関心がある旨述べた。同大統領は, ベラルーシとチェチェンの高度技術部門での協力が将来性があることと, チェチェンで自動車の生産が開始されたことを踏まえ, 自動車部品部門での協力の可能性につき指摘した。また同大統領は, 機械製造, 石油化学, バス生産, 農業等での連携についても提案した。

(9月25日付大統領サイト)

●英外務省ダンカン閣外大臣との会談

9月26日, ルカシェンコ大統領は英外務省ダンカン閣外大臣と会談した。同大統領は英国による欧州連合(EU)離脱に懸念を表明しつつも, ダンカン大臣が今次訪問を通じ, ベラルーシに関する客観的な意見を持ち帰ることを期待する旨述べた。また同大統領は, ベラルーシでの英国企業との合弁事業設立及び電気自動車の分野での両国の協力の可能性につき言及した。ダンカン大臣は, 英国はEUを離脱するとは言え, 現在進行中の政治・経済プロセスや安全・安定といった問題の解決には引き続き関与してゆく旨述べた。また同大臣はウクライナ情勢の解決に関するルカシェンコ大統領の見解を質した。

(9月27日付大統領サイト)

●ローマ・カトリックの高位聖職者一団との会合

9月28日, ルカシェンコ大統領は, 欧州主教評

議会総会に出席するためにミンスクを訪問中のローマ・カトリック教会の高位聖職者一団と会談した。席上, 同大統領は, ベラルーシは引き続きウクライナの平和を回復するためにあらゆることを行う旨述べた。またロシア正教会キリル総主教とローマ・カトリック教会フランチェスコ法王の会談をベラルーシでアレンジすることを再度提案した。

(9月28日付大統領サイト)

●高官人事

9月28日, ルカシェンコ大統領は, カルリューケヴィチ情報大臣, ボンダリ文化大臣等を任命する高官人事を承認した。

(9月28日大統領サイト)

【内政】

●野党主導の集会の開催許可

9月22日, ミンスク市執行委員会(市役所)は, 保守キリスト教党と国民戦線党による, ベラルーシ・ロシア両国合同軍事演習「ザーパド 2017」終了後のロシア軍引き上げを求める集会の実施を許可。ミンスク市側は集会実施日を9月28日から10月3日に延期するよう提案し, 野党側も了承した。

(9月22日付ベラパン通信)

●弁護士資格の更新を巡る問題

人権擁護団体「春」によれば, 9月25日, 司法省資格委員会(弁護士部門)の会合が開催され, 召喚された13人の弁護士のうち8人の弁護士資格延長が認可されなかった。8人のうち5人は, 本年3月に大衆騒擾を企てた嫌疑で逮捕された愛国

主義団体「白い部隊」の元メンバーの弁護人。この8人の弁護士資格については、司法省の勧告を遵守していれば、1年半後に最終決定が下される。
(9月26日付ベラパン通信)

【外交】

●マケイ外務大臣の国連総会出席(続報)

国連ラジオでのマケイ外務大臣のインタビュー

・9月21日、マケイ外務大臣は国連ラジオのインタビューにおいて、ベラルーシは国連内で中所得国が連携するという大規模な戦略を提案し、このように中所得国の利益を押し進めることが、国連においてベラルーシが追求する主要な目標の一つである旨述べた。

・また同大臣は、新たな形態の大量破壊兵器の開発及び生産を禁止するための国連決議をベラルーシが発議する予定である旨述べた。

(9月22日付国営ベルタ通信)

国連総会議長及び各国外相との会談

・9月22日、国連総会出席のためニューヨークを訪問したマケイ外務大臣は、ライチャーク国連総会議長、レーク国連児童基金(UNICEF)事務局長、メサヘル・アルジェリア外務大臣、ムアッリム・シリア外務大臣と会談した。

・また同日、北朝鮮側の要請により、リ・ヨンホ北朝鮮外務大臣との外相会談が行われた。国際機関における両国の協力及び連携にかかる諸問題について、リ大臣が協議の口火を切り、朝鮮半島情勢に関して意見交換が行われた。マケイ大臣は、紛争の全当事国は緊張をさらに高める恐れのある行為を抑えなければならない旨指摘した。またマケイ大臣は、ベラルーシとしては国連安保理決議を踏まえた上で、北朝鮮と喫緊のテーマに関して対話を継続する用意がある旨強調した。

(9月23日付外務省サイト)

●ベルギーの議会代表団の来訪

9月21日～23日にかけ、ベルギーの議会代表団がベラルーシを訪問した。22日、ピルシュトゥク代表者院(下院)副議長はベルギー連邦議会对ベラルーシ議会間交流部門ヴァン・カンブ代表一行との会談を行った。会談では、ベラルーシ・ベル

ギー関係の堅実な進展と両国のイメージ向上を踏まえ、エネルギー、保健、環境、人的交流について特に集中的に議論された。

一行は滞在中、外務省クラフチェンコ次官やベラルーシ子どもホスピス代表とも会談した。

(9月22日付代表者院サイト、外務省サイト、ベラパン通信)

●マケイ外務大臣と英外務省ダンカン閣外大臣との会談

マケイ大臣とダンカン大臣の会談

9月26日、マケイ外務大臣は、ベラルーシを公式訪問中のダンカン英外務閣外大臣(欧州・米州担当)と会談した。席上、政治、貿易、経済その他の分野におけるベラルーシと英国の協力にかかる広範な諸問題、二国間の法的基盤の拡大、さらには(欧州)地域の当面の問題につき協議された。また、所得及び試算に対する租税に関する二重課税の回避及び脱税の防止のためのベラルーシと英国との間の条約の署名式が行われ、ベラルーシ側からはナリヴァイコ税務大臣が署名した。

会談後のマケイ大臣の記者会見

・ベラルーシにとって英国は、欧州地域における極めて重要なパートナー国であり、両国には使われていない潜在力が大いにある。

・英国による人道分野での協力、チェルノブイリ原発事故の被害克服における支援に感謝。英国では、100以上の慈善団体が対ベラルーシ支援の提供に携わっており、ここ6年で、約8,000人の子どもが英国で保養している。

・ベラルーシは、英国企業がベラルーシの各経済特区や中国・ベラルーシ産業特区「巨石」で何らかの生産事業の設立を希望する場合、最大限のチャンスを提供する用意がある。ベラルーシと欧州の一連の金融経済機関との協力について、こうした機関との協力にかかる諸問題に関して英国に支援を要請した。

・英国企業は電気自動車の生産、再生可能エネルギー関連施設の建設、情報技術等に大いに強みがあり、ベラルーシはこうした企業との緊密な協力に関心がある。

(9月26日付外務省サイト)

●人身取引に関する国連総会ハイレベル会合

9月27日、ダブキユナス外務次官は、人身取引対策に関する国連による全世界的な行動の進捗・実施状況の評価にかかる国連総会ハイレベル会合に出席した。同次官は、国連の内外で本件に取り組むために多国間の連携を構築するよう呼びかけた。また同次官は、人身取引の被害者のための国連信託基金に対するさらに広範な支持が必要とされているとした上で、ルカシェンコ大統領の決定により、ベラルーシは同基金の活動に対して3度目の献金を実施した旨発表した。

(9月28日付外務省サイト)

●ウクライナ機による領空侵犯に対する抗議

9月28日、外務省はキジム駐ベラルーシ・ウクライナ大使を召喚し、9月25日に発生したウクライナ機「DM-42」によるベラルーシ領空侵犯に関連する口上書を手交した。ベラルーシ側は国境の不可侵を強調し、同様の事故の再発防止に向けてウクライナが講じる措置を含む公式説明を求めている。

(9月28日外務省サイト)

【治安・軍事】

●ロシアとの合同軍事演習「ザーパド 2017」を巡る動き

ベロコネフ軍参謀総長によるインタビュー

・9月24日、ベロコネフ軍参謀総長兼国防第一次官は国営「全国テレビ」の番組において、ベラルーシはあらゆる戦争に準備ができている旨述べた。同参謀総長によれば、冷戦は過去のものとなり、現在、戦争の様相は全く変わってしまい、偵察手段が大いに発達し、戦闘行動の実施様態も大きく様変わりしている。同参謀総長によれば、ベラルーシは旧ソ連圏で唯一、侵攻と防衛の2つだけではなく、外国からの支援を受けた勢力の自国への侵入と対処という特殊作戦の実施を含めた3つの軍事行動の形態につき検討している。

・また同参謀総長は、ベラルーシ領からウクライナに対する脅威に関し、ベラルーシ軍全軍でも65,000人だというのに、ベラルーシの森林地帯にどうやって6万人ものロシア軍部隊を隠せるという

のかとした上で、ベラルーシは新軍事ドクトリンを含め、あらゆる文書で際だって平和を愛好する国家であることを謳っている旨述べた。さらに同参謀総長は、ベラルーシはいかなる隣国に対しても領土的要求がなく、ましてウクライナはスラヴの兄弟国であると強調した。

ウクライナによる否定的評価に対する反論

9月26日、国防省国際軍事協力局は、ロシアとの合同軍事演習「ザーパド 2017」の透明性が条件付きのものであったとするウクライナ国防省の評価には同意できない旨発表した。同局は、オブザーバーの総意によってノルウェーのオブザーバーが代表に選ばれ、同代表が同演習の内容は事前通告どおりであり、演習及び視察の実施に関してベラルーシ側はオープンかつ透明であったと強調していること、ウクライナのオブザーバーが同演習に関してコメントを拒否したことを指摘した。

「ザーパド 2017」演習に参加した露軍の撤退完了

9月29日、ベラルーシ国防省は、「ザーパド 2017」演習に参加したロシア軍部隊が前日夕刻にベラルーシからの引揚げを完了した旨発表した。(9月24日付ベラパン通信、26日、29日付国防省サイト)

【経済】

【国内経済】

●ベラルーシ投資フォーラムの開催

9月28日～29日にかけて、ミンスクでベラルーシ投資フォーラムが開催された。

マチュシェフスキー第一副首相の発言

・マチュシェフスキー第一副首相は記者団に対し、ベラルーシの銀行資本、例えば「ベラルーシ投資銀行」に対する外国からの投資が、かなり高い確率で2020年以前に行われる旨述べた。

・また同第一副首相は、経済改革に代わるものがない以上、ベラルーシは前進しなければならないと述べた。同第一副首相は、これはベラルーシによる明確な決定事項であり、この取り組み方を変えることはない旨付言した。

・さらに同第一副首相は、2018年にベラルーシがユーロ建て国債を発行する可能性につき言及した。

世界銀行カハコネン・ディレクターの発言

・世界銀行カハコネン・ディレクター（ベラルーシ・モルドバ・ウクライナ担当）は、ベラルーシ政府が経済成長を追求するだけでなく、経済を安定させるために構造改革を実施する必要がある旨述べた。同ディレクターは改革が必要な根拠として、輸出市場の悪化、ベラルーシ経済に力める国営部門の高いシェアを挙げ、現在のまま政策を変えることがなければ、ベラルーシは低成長の罠にはまり込むと指摘した。

・同ディレクターはベラルーシの持つ強みとして、高い教育水準とインフラの発達を挙げた。同ディレクターは、国営企業の再建、金融部門に対する取り組み強化、社会全体が経済プロセスにさらに関与すること等をベラルーシに対して勧告し、国営企業再編に伴う社会保障の担保については、中小企業の発達によってカバーできる可能性がある旨述べた。

財務省エルモロヴィチ第一次官の発言

・財務省エルモロヴィチ第一次官は、ベラルーシには現在のところ、国際通貨基金（IMF）に対して新たな融資プログラムに関する交渉の継続を申し入れる予定がない旨述べた。同第一次官は、同プログラムは事実上完成しているとしつつも、ベラルーシと IMF ではお互いの立場に違いがあり、その違いを埋めようとそれぞれ取り組んでいる最中である旨述べた。

・同第一次官は、2018 年における対外債務の償還は新規借入と国家予算の黒字分をもって行われる予定であるとした上で、2018 年には外貨建て債務 8 億～9 億ドルが償還予定であること、2018 年予算では 5 億ルーブルの黒字を見込んでいることを付言した。

（9 月 28 日付ベラパン通信、国営ベルタ通信）

●政策金利の引き下げ：年 11%へ

9 月 27 日、国立銀行（中央銀行）は、10 月 18 日から政策金利を年 11.5%から年 11%に引き下げると発表した。今年に入って 8 度目の利下げ。

28 日、国立銀行（中央銀行）カレチツ副総裁は、現在の年 11%という政策金利の利率が 2018 年中に政策金利を 10%とする同行の目標に既に

近付いていることから、来年にはさらなる大幅な利下げを予定していない旨発言。

（9 月 27 日、28 日付国営ベルタ通信）

【対外経済】

●コビャコフ首相とチェチェン共和国カディオフ首長との会談

9 月 25 日、コビャコフ首相は露チェチェン共和国カディオフ首長と会談し、今後の協力分野につき協議した。同首相によれば、ベラルーシはチェチェンへのバス、トラック、ダンプカー、農機、建機等の納入に関心がある。また、農工業両部門での協力の可能性についても協議された。

（9 月 25 日付政府サイト）

●石油製品輸出に関する「ベラルーシ石油」幹部の発言

9 月 28 日、「ベラルーシ石油会社」グリブ社長代行は、石油製品をロシアの港湾を経由して輸出することは、現時点では物流面でも費用面でも負担が大きくなることから合理性がない旨述べた。

（9 月 28 日付ベラパン通信）

【統計・その他】

●ベトナムとの貿易高増加

ユーラシア経済委員会によれば、ユーラシア経済同盟（EAEU）とベトナムの自由貿易圏の設定に伴い、2016 年 10 月～本年 6 月までのベラルーシとベトナム間の貿易高は、前年同期比で 23.3%増加した。ベトナムへの主な輸出品目は、食料品、農産品の原料、金属、金属製品等。

（9 月 25 日付国営ベルタ通信）

（了）